

いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第45号
(平成25年8月1日号)
岩手県

復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

子どもたちも夏休みに入り、笑顔あふれる季節。復興に向けて歩み続ける被災地。そんな岩手の今を紹介します。

7月27日(土)、大槌町の吉里吉里(きりきり)海岸で砂浜の砂を使って彫像づくりを楽しむ「砂の芸術祭2013」が開催されました。

このイベントは、震災の影響で海と接する機会が少なくなった子供たちに、砂浜に触れ、海と親しんでもらおうと、地元の若手経営者たちで作る「はまゆり若だんな会」が企画。

約20年ぶりに大槌町の夏の風物詩が復活することとなりました。

会場には、町内外から約130人が参加。それぞれのチームに分かれ、約3時間の制限時間の



砂で作られた恐竜

夏の風物詩、約20年ぶりに復活
「砂の芸術祭」が開催されました

大槌町



波打ち際で遊ぶ子どもたち

中で、恐竜や船、地元の伝統芸能である虎舞などを題材とした彫像作りを行いました。

当日は、時折雨が強くなり、作業を中断する場面もありましたが、参加者たちは砂にまみれながら、海と接するひとときを楽しんでいました。

イベントを主催した芳賀光実行委員長は、「この吉里吉里海岸も、今年度から堤防のかさ上げ工事が始まり、今後砂浜がどうなるのかは分かりません。できることなら子どもたちや地域の方々のためにも続けていきたい」とイベントの継続に意欲を示していました。

久慈湾内4箇所緑地公園

東日本大震災津波の被害を受けた、久慈湾内の4箇所の緑地公園の災害復旧工事が7月27日(土)に完了しました。

復旧したのは、みなと中央公園、諏訪緑地、シーサイドパーク、半崎緑地公園の4箇所。がれきを撤去した後、フェンスや施設を修繕しました。

同日、これを記念して、みなと中央公園野球場では、岩手県と久慈ライオンズクラブの共催によるオープンセレモニーが開催され、併せて少年野球チームの交流試合が開催されました。

セレモニー終了後行われた交流試合には、久慈市内の3チームに加え、八戸市と洋野町から招待された2チームが参加しました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、津波被害を乗り越えたグラウンドで、子どもたちは元気いっぱいプレイし、試合ができる喜びをかみ締めている様子でした。

津波被害を乗り越え復旧しました

久慈市

NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」のロケ地として注目の集まる久慈市においても、復興の足音が聞こえています。



復旧前



復旧後

いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!

登録無料



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員(個人)と応援団(法人及び団体)の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

誰も取り残されることのない 岩手の復興の実現に向けて

女性の方々との意見交換会が 開催されました

盛岡市

7月19日（金）、東日本大震災津波復興実施計画（第2期）の方向性等についての女性との意見交換会が、エスポワールいわて（盛岡市）で開催されました。

この意見交換会には、岩手県内の様々な分野で活躍されている女性13名が参加。2011年7月、2012年6月



意見交換会の様子

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第2回目は、尾無 徹さんを紹介します。

PROFILE

盛岡市出身。小学校4年生から高校卒業までを山形村（現在の久慈市山形町）で過ごす。

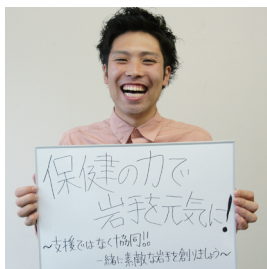
岩手県立大学看護学部へ進学した後、看護師と保健師の免許を取得。山田町初の男性保健師として従事し、現在4年目。

保健師として1年目になる頃、山田町で被災。

保健師として働く尾無さんは「被災地では、50代、60代の方がいろいろなことを決定し、30代、40代の方が実働的な部分を受け持つケースも多く、10代、20代の学生や若者は、もっとこういうふうになりたいと思いながらも、復興に係わっている実感を持ちにくいということもあるようです」と被災地の印象を語ります。

未来の さんりく びと

山田町健康福祉課
尾無 徹
(おなし とおる) さん



尾無さんからのひと言：
保健の力で岩手を元気に！
～支援ではなく協同！！一緒に
素敵な岩手を創りましょう～

に続き、今回で3回目の開催となります。

岩手大学の菅原悦子副学長の司会進行のもと、各参加者から県の復興計画や取り組みに対する要望や意見が出され、県の担当者も交えて、活発な意見交換が行われました。

意見交換後に、「誰も取り残されることのない復興の実現に向けた4つの提言」が出席者の総意として提言されました。

今回の提言や意見交換の内容を参考に、次年度からの「復興実施計画（第2期）」の策定に反映させていきます。

「4つの提言」

1. 県・市町村の復興に関する政策・方針決定の場への女性の参画率30%を確実に
2. 岩手県・市町村における復興担当職員への研修実施を
3. 世帯ではなく一人ひとりの意向尊重を
4. 相談等ニーズの高い事業継続のための予算化を

「参加者からの意見」例

- ・大人の防災への関心を高めることが必要
- ・子どもたちの運動不足による肥満や心の問題等に対処した「子どもの育ちの視点」を計画に盛り込むべき
- ・復興に携わる人たちが、みんな同じ視点で被災者と接していくことが必要

「今の10代、20代がこれから先、町の中心になり、協同していく必要がある」と感じ、学生たちと一緒になにかをやりたいとの思いから「カッキー's」を結成。

「カッキー's」は、大学生を中心に、仮設住宅でのサロン活動等、被災者の心と健康に関するサポートを行っています。

若者だからこそできる支援

学生が行うサロンは、明るくポジティブで、毎回多くの住民が参加し、「若者」だからこそ生み出せるコミュニティが形成されています。

「自分がかんばれるのも学生のおかげです。学生の一生懸命な姿が力をかけています。岩手県の若者たちが状況を改善するという訳ではなく、一緒に感じていくことが必要だと感じています」と尾無さん。

若者の夢と一生懸命さ。今後も、世代を超えた復興への歩みに期待が膨らみます。

岩手県の被害状況

平成25年6月30日現在

- ▶人的被害 死者：4,672名 行方不明者：1,146名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 24,928棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成25年6月30日現在

- ▶義援金受付状況 約177億8,929万円（85,910件）
- ▶寄付金受付状況 約165億3,294万円（6,199件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約58億522万円（10,554件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

いわて復興だより 第45号 平成25年8月1日

企画・発行：岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス